

今号の言葉

「幸せな子を育てるのではなく
どんな境遇におかれても
幸せになれる子を育てたい」

美智子皇后陛下のお言葉です。民間から皇室に嫁がれた美智子皇后陛下の母としての願いであったそうです。

親という字は「木の上に立って見る」と書きます。本来の語源とは異なりますが、子供の先を見据えて育てることの大切さを示しているように感じます。目先の幸せだけを追い与えるのではなく、幸せになれる行動、そして幸せを感じられる心を育てたいものです。そこには「感謝」がいろいろある心が必要不可欠なはずです。

感謝

唱導寺護持会会長はどんな人？ 佐藤琴帥氏



昭和二十九年、佐藤氏が自宅を新築するため初代住職に地鎮祭の依頼をしたことが結縁で、以来六十四年間唱導寺を見守っている。佐藤氏は「初代正道住職のお経は全身に響き渡り活力と感動をいただき、二代海成住職のお経は心身共に穏やかになり、自分自身を省みること鏡の如くであり、三代海應住職のお経は自然と心身共に癒される悟りの心境を感じられる」と、三人の住職と共に祈ってきた思いを語る。平成十八年に現住職と護持会役員の懇請により佐藤氏は護持会会長に就任した。以来それまで以上に唱導寺の為に辛苦を惜しまず尽くしてくれている。

また、佐藤氏は書道の大家であり、唱導寺にも多数の作品を寄贈している。特に刻字に関しては失礼ながら年齢を重ねた女性とは思えぬ迫力の作品である。唱導寺参拝の折には是非見て頂きたい。

佐藤氏は「皆様がいづれも気軽に先祖様のご供養や参拝ができるように皆様の菩提寺を大切にお守りできるよう努めてまいりますので、皆様も唱導寺と護持会に対しご理解、ご協力を心よりお願いいたします。」と護持会会長としての思いを語っている。

毎日書道会 会員／日本刻字協会理事 審査員／横浜書人协会会长 審査員
琴帥会 会長
綾瀬市教育委員会文化芸術部門でも活躍中
旭区笹野台の自宅稽古場では毎週火曜日・土曜日にお稽古を行っている。
詳しくは〇四五(三六)一五七四一まで

第2号
2018.6月

唱導寺だより

Shoudouji News



成満し出行した後、聖教殿前で檀信徒の皆さんと

当寺住職が
日蓮宗大荒行堂第五行を
成満いたしました

日蓮宗
延宝山

唱導寺

大荒行へ向かう入行の様子



当寺住職による

「海應コラム」

Vol.02

出 家得度をしてはや三十五年になる。縁あって唱導寺先代住職の長男として命を頂いたが、中学までは全く坊さんになる気はなかった。いや、坊さんは嫌いだ。寺の子供は幼少期に必ず友達に言われるフレーズ「坊主丸儲けー！」子供心に坊主＝悪者のな？複雑な気持ちだった。では何故坊さんになろうと決めたかという、やはり今号の特集である「大荒行堂」なんです。

中 学一年の冬に、父である先代住職が四回目の荒行に挑んだ。三回目は私が生まれた年なので当然記憶にない。十二月六日が過ぎ家族で父の面会に行った（三十五日間が過ぎると面会ができるのです）。その時の父の姿と、一緒に修行をしている坊さんの姿にやられてしまったのです。「なんか分かんないけど格好いいな！」中学生の私はこの単純な思いで、父に「坊さんになる」とポロツと言ってしまった。父が荒行から帰ってくると直ぐに得度式が行われた次第です。

以 来、荒行堂に行き修法祈禱することが私の坊主としての大きな目標でした。生きている人も、亡くなった方もお題目の祈りにより、より良き道に進んでもらいたい、少しでもそのお力になりたい。その一心で厳しい荒行に挑み続けた二十五年でした。御本佛の「佛力」、お題目の「経力」、修法師の「慈念力」、皆さんの「信力」が合わさった時、佛天は感応道交し必ずご守護を下されます。今日も唱導寺で皆様のことを祈っています。



今号の一枚

昭和五十八年、先代住職（前列右から二人目）が大荒行堂第四行を成満し唱導寺に帰山した時の一枚。この時に現住職は出家得度を決心した。中央は先代住職の兄弟子にあたる正伝師鎌倉長勝寺 久村日鑑祝下。

唱導寺だより 第2号

発行 ◆平成30年6月18日

発行者 ◆日蓮宗延宝山 唱導寺

住職 菅野 海應

神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34

電話: 045 (842) 2955

FAX: 045 (841) 9600

ホームページ: www.shoudouji.org/

日蓮宗大荒行堂つてどんなところ？

日蓮宗のお坊さんの中で、修法祈禱を志す者が修行をする場所です。祈禱というと神道や佛教では真言宗を思い浮かべる方が多いかと思いますが、日蓮宗にも修法師（祈禱師）がいるのです！但し、日蓮宗のお坊さんならば誰でも祈禱ができるわけではありません。厳しい荒行堂を成満した者だけが祈禱をすることが許されます。



昔は複数の荒行堂があり、そこから流派がうまれていましたが、現在は千葉県市川市にある日蓮宗大本山法華経寺の中に開設されている日蓮宗公認の荒行堂と、法華経寺の塔頭寺院である遠寿院で開設されている荒行堂の二か所がありますが、どちらの荒行堂も基本的な日課は同じです。

荒行は十一月一日より翌年二月十日までの寒杓百日間行われます。十一月一日にお坊さんの死装束である「清浄衣」を着用し、修行が始まる日と修行が終わる二月十日の年に二回しか開門しない「瑞門」という門をくぐり百日間の修行が始まります。清浄衣を着用するということは命を懸けて修行する決意の表れです。

入行と同時に以下の修行が始まります。

◆修行の基本日課◆	
午前2:40	起床
午前3:00	水行
午前4:00	朝勤
午前5:30	朝食 (お粥・味噌汁)
午前6:00	水行
午前9:00	水行
午前10:00	昼勤
正午12:00	水行
午後3:00	水行
午後4:00	夕勤
午後5:30	夕食 (お粥・味噌汁)
午後6:00	水行
午後7:00	夜勤
午後11:00	水行
午前0:00	就寝

以上が基本的な日課で、その間にさらなる読誦三昧に入り、書写行等を行います。



昨年11月1日に
入行しました

わずかな睡眠と食事の中で、一日に七度の水行を行い心身は徐々に追い込まれていきます。そのような中にあつて最初の三十五日間は自分自身の罪障消滅（自行）を中心に行い、その後他（化他行）に入っていきます。

自分自身を極限状態にするなかで、佛天に祈りを捧げ続けることにより、ある一線を越えたところから普段とは全く違う感覚となり、身体は衰えていきますが信仰により心は満たされていきます。そして、あらゆるものの中から佛天のメッセージを感じる状態に入っていくのです。

荒行堂での修行は五段階に分かれています。初めて修行をする者は「初行僧」と言い、「修法祈禱」に関する基本的なことを相伝され、木剣祈禱を体得します。二回目の修行をする「再行僧」は「幣束（紙で神様を表す）」を感得します。三回目の修行をする「参行僧」は大黒様（福の神様）を感得します。四回目の修行をする「四行僧」は水神様（水の神様）を感得します。そして、最終行である五回目の修行をする「五行僧」は「本尊の世界を感得し、五行を成満した修行僧は「五行皆伝・伝師相承」という免許皆伝の允許を受けます。

二月十日の午前六時、まだ暗い中で百日ぶりに瑞門が開門され、全国から集まった檀信徒に迎えられ寒杓百日間の荒行を修めた荒行僧が出行していきます。

例年三〇名く二六〇名のお坊さんが全国より集まり、それぞれの行数に応じた修行をしますが、入行した者が全員出行できる年はまずありません。出行した修行僧は修行で宿した経力を持って、それぞれの寺院を中心に、修法布教に邁進していきます。



百日間の荒行を無事
終えて出行した住職



普段は開かずの門
「瑞門」をくぐって
修行が終了

住職帰山奉告式



二月十日に大荒行堂での修行を無事に終えた住職は、二月十二日に九名の荒行僧と共に唱導寺に帰山しました。少々風が強かったものの晴天に恵まれ、午前十時に日野公園墓地内の聖観世音菩薩像の前で読経した後、帰山旗がなびく中、お題目の声高らかに帰山行列を行い、大勢の檀信徒の皆様を迎えられ唱導寺に到着しました。午前十時半より寒気の中、荒行堂を彷彿させる水行式を行い身を浄めた後、いよいよ唱導寺本堂に於いて日蓮宗大荒行堂第五行成満帰山奉告式が執り行われました。修行を終えたばかりの荒行僧の力強い読経の後、住職による帰山奉告文の言上があり、初行入行以来二十五年間をかけて通算五百日の荒行を修められたことに対する感謝の思いや、この荒行で積んだ功德は檀信徒の皆様のご功德であることなどが仏祖三宝に奉告されました。



2月の寒気の中
本堂前で水行式
を行いました



日野公園墓地付
近を帰山行列し
ている様子

その後、日蓮宗大荒行堂正伝師である吉澤日観親下



檀信徒の皆さん
に配られた記念
の祈禱米

り住職に対し、五行成満の許証と全修行僧の代表である全堂代表を務めたことに対する感賞状が手渡され堂内より大きな拍手が起りました。

続いて日蓮宗総長に代わり、日蓮宗神奈川県第一部宗務所長である篠原顯祐僧正より五行皆伝伝師相承の認証書が手渡され、来賓のお上人様方より温かいご祝辞を賜りました。更に、吉澤日観正伝師親下より唱導寺護持会佐藤琴帥会長に対し、荒行僧への供養と扁額奉納に対する感謝状が手渡されました。

謝辞の中で住職は、

「今回の修行では、どれだけ他に尽くすことの功德が大きいのかということをも、改めて感じさせられた。自分本意にならず他に尽くしお題目の信仰に励めば、必ず佛天は守護し導いて下さることを確信した。これからは、この修行で感得したことを皆様の為、お題目流布の為に活かしていきたい」と述べました。



帰山奉告式終了後には参拝者の除災得幸を祈り、住職を大導師に荒行僧による迫力の修法祈禱が行われました。最後に境内で鏡開きを行い、帰山奉告式の日程が終了した。

参拝して下さった檀信徒の皆様、護持会役員をはじめ準備からお手伝いくださった皆様、誠に有り難うございました。



海應住職荒行堂の歩み



平成4年に初めての荒行に挑み、平成8年度「再行」、平成18年度「参行」、平成23年度「四行」と修行を重ね、初行入行から25年の歳月をかけ、平成29年度「五行」に入行し最高相伝である本尊相伝を感得して参りました。

特に今回の修行は全国から集まった全ての修行僧の代表である「全堂代表」という立場での修行でありました。今回の荒行堂は日蓮宗の修行規定が変更され、荒行堂始

って以来の100名をきる86名という少人数での修行でした。その分大変な修行ではありましたが、自分の修行だけではなくお互いが支え合う気持ちを強く持ち、「自他共に」というお釈迦様の御教えに適うより良い修行ができた荒行堂でした。

全国には約五千の日蓮宗寺院がありますが、開山より三代続けて住職が荒行堂五行満行したお寺は稀であります。